



11月の園だより

令和6年11月1日
目黒区立祐天寺保育園長

運動会では多くのご参加ありがとうございました。子どもたちの思いと保護者の皆様の眼差しで体育館全体が温かな空間になっていました。運動会の後も、繰り返し多くの余韻を楽しんだ子どもたちにとって、ますます運動会の印象が温かく重なり心に残ってくれていると思います。

さて、先日4歳児クラスと5歳児クラスで芋ほり遠足に出かけました。バスに乗り、クイズ大会で盛り上がるうちに川越の農園に到着です。予報に反して降り出した雨に不安になりつつも晴れ間を狙って畑へ出ました。張り切って掘り始めると、あちらこちらから「見てみて」「こんなに大きい」等と歓声があがります。時々、土の中から出てくる大きな虫に驚いても、すぐにまた掘り始めていました。自分の株を掘り終えた数人は喜々として友達を手伝ったり、残りの株や堀残しを探したりと、芋ほり名人が次々と登場していました。掘り上げたお芋は、それぞれ十数本になり、少し離れたバスの近くまで重い袋を引きずったり休んだりしながら懸命に運びました。そして最後には、お土産としてお家へ持ち帰る芋をリュックに詰めてバスから保育園まで背負いました。ずっしりとした重さで、頑張った収穫の秋を実感した1日となりました。

31日には、園庭で焼き芋をしました。収穫から口に入るまでの楽しい食育の秋です。

<行事予定>

- | | |
|-----------------|------|
| 歯科検診(全園児) | 身体計測 |
| ポニー教室(5歳) | 避難訓練 |
| 乳児お楽しみ会(0、1、2歳) | |
| 交通安全ジオラマ教室(5歳) | |



【12月の保護者参加の行事について】

『大きくなったね会』(3・4・5 歳児)を行います。

園庭の様子



<ちゅうりっぷ組(0歳児)>

砂に触れて手についた砂を真剣な眼差しでじっと見たり、ギュッと握ったりして感触を味わっています。テーブルの上で砂の型抜きをして見せると、片手で上から叩き砂が崩れると「あっ」と指を差し保育士を見えています。少し驚いた表情に保育士も「崩れたね」と抑揚をつけて応えると、嬉しそうにテーブルをトントン叩いています。日々子どもたちの喜びや驚きに共感しながら、様々な感触も一緒に遊び楽しんでいきます。



<たんぽぽ組(1歳児)>

タイヤを並べて作った一本橋を見つけると、歩いてみたり四つ這いだったりそれぞれの渡り方をしています。保育士がカニの真似をしながら歩くと他の遊びをしていた子もそれを見て楽しそうだったようで、同じように「かにかに」と言いながら渡ってみようとしています。途中でバランスを崩しながらも渡り切ると「もうっかい」と再び最初のところに戻って繰り返し渡っています。一本橋だけでなくタイヤの山やトンネルなどその日によって子どもたちが興味も持てるような設定し歩く、這うなど楽しみながら体を動かして遊んでいます。



運動会後の幼児クラスの様子



<ひまわり組(2歳児)> 「たのしそう！ やってみたい！」

幼児クラスが庭で運動会ごっこをした時に、一緒にソーラン節や競技、ダンスなどお兄さんお姉さんたちを見て真似ながら、嬉しそうに身体を動かしています。他のクラスの友達が大勢いる中では参加せずに見ている子もいましたが保育室に戻ると「りんりんごーごー(りす組のダンス)やりたい」と子どもたちから声上がり、みんなで繰り返し踊って楽しんでます。後日庭に出た時には、うさぎ組が運動会で使っていたフープを手にし「これキラキラのだ」と嬉しそうにくぐったり回したりする姿や、4, 5 歳児が鉄棒をしている隣では一緒にぶら下がってみる姿もあります。お兄さんお姉さんたちの刺激をたくさん受けて“楽しそう、自分もやってみたい”という気持ちをたくさん膨らませて遊んでいます。

<りす組(3歳児)> 「運動会の絵を描きました」

「運動会どうだった？」と聞くと「ダンス踊ったね」「よーい、ドンした」「たくさんお客さんがいて恥ずかしかった」など思いが溢れています。描き始めると、「リンゴの帽子をかぶったんだよね」「(体育館は床に)線がいっぱいあった」「缶ぽっくりすき」「〇〇ちゃんと(かけっこ)走ったよ」と「ママが写真撮ってくれた」と印象的だったことをそれぞれが画用紙に描いていました。行事や日々の経験が積み重なり成長や自信につながっていきます。描画を通して、子どもたち一人ひとりと話し、頑張った運動会を振り返る大切な時間となりました。



<うさぎ(4歳児)>

キラキラのフープを園庭に出すと「これは自分たちの」というように誇らしげに手にして、ほかのクラスの子にも「いいよ、使って」と渡してあげています。「フープの踊り教えてほしいなあ」という声が耳に入ると嬉しそうに「いい、よ！まずこうして！」とスタンバイのポーズ。「音楽かけて！」と保育士にリクエストし、音楽がかかると見本となって動き、全クラスのやりたい人がたくさん集まって再現して楽しむことができました。縄跳びや大縄へのあこがれがあった人は列に並んで跳び方を教わり、すっかりきりん組気分です。やってみたかった事に挑戦し「教えて」と言われる嬉しさや喜びをたくさん感じ、また一つ成長した子どもたちです。



<きりん組(5歳児)>

園庭に出るとりす組の友達が短縄を絡ませながら「リボンってどうやるの」「太陽は作るの難しいね」と短縄を使った競技の再現をしています。保育士が「困っているみたい」と声を掛けると子どもたちが「こうやってやるんだよ、ちょっと縄を貸してごらん」と得意気にりす組の友達にやり方を教えたり「上手だね」と褒めたりする姿がありました。すると次々に「次は組体操したい、片手バランスはできるよ」「飛行機ってどうやるの」とリクエストされ嬉しそうにかかわっています。一年前は年上の友達に憧れ“次は、きりん組みたいになりたい”と思っていた子どもたちですが、自分たちが憧れの存在となったことに誇らしさを感じているようです。

